

OSSはオワコンか

～10年間OSSをテーマに活動してきた
NPO法人OSSAJの軌跡から考える～

2014/11/22

OSC福岡

OSSAJ

橋本明彦

はじまり

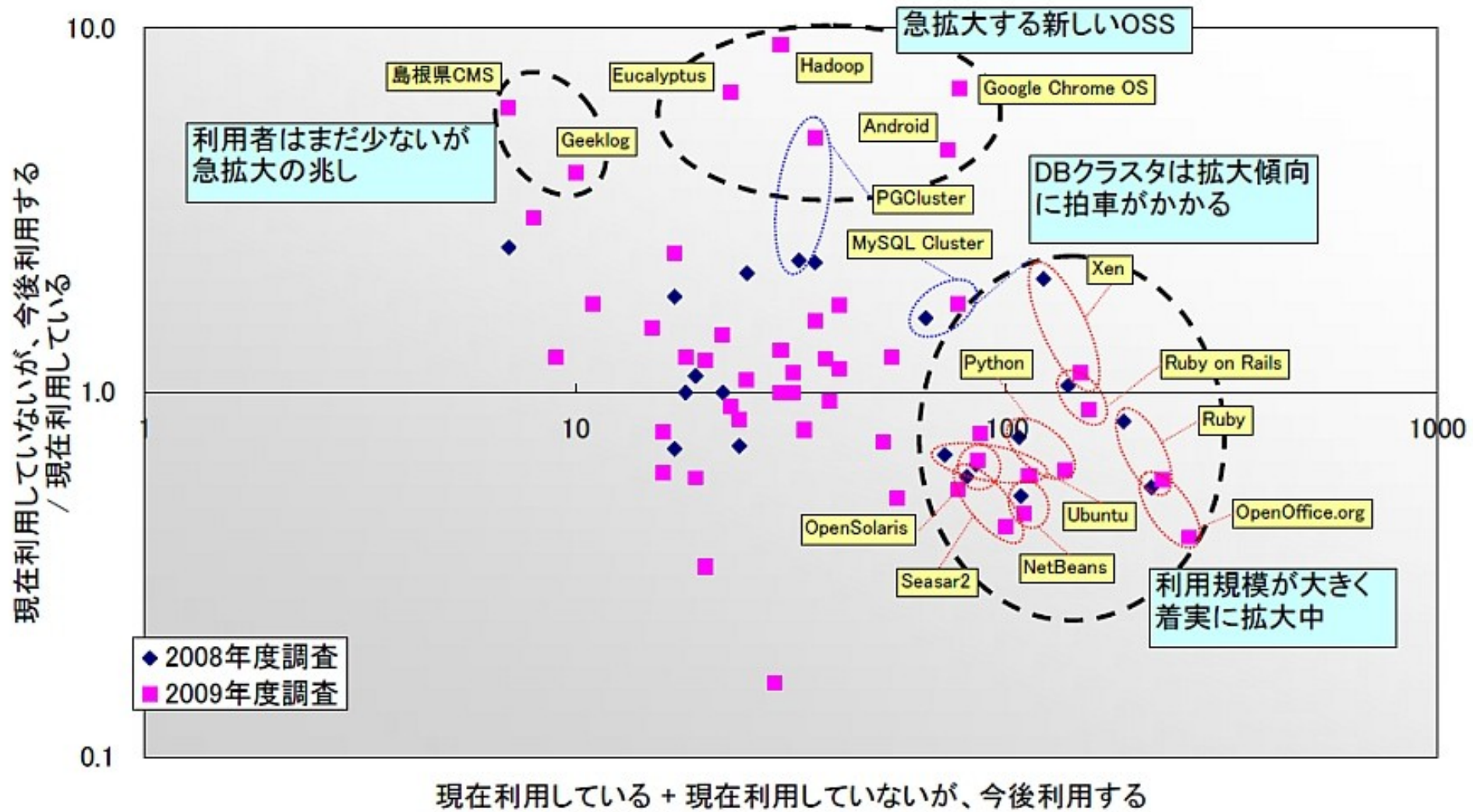
- 橋本明彦
- 特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会から、やってきました。理事です。
 - <http://www.ossaj.org/>
 - Open Source Software Association of Japan です。間違っても、最後は Nippon ではありません。
- いろいろと、お世話になっております。
 - オープンソースカンファレンス.Government 実行委員
 - 福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議 顧問
 - 一般財団法人Rubyアソシエーション 理事
 - OSSコンソーシアム 賛助会員(個人)
 - 日本OSS推進フォーラム 個人会員 (アプリケーション部会所属)
 - ICTイノベーションミッションナリ(No.58)

OSSオワコン説

- 八田さん
 - OSC Kansai@Kyoto
 - OSSをテーマにした論文の件数が下降に転じている。
- 橋本
 - OSCHokkaido
 - 最近、OSSに関するアンケート調査結果を見かけない。

OSSに関するアンケート

- さまざまな調査研究がありました . . .
- 第1回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
 - https://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_0608.html
- 第2回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
 - http://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_0803.html
- 第3回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
 - https://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_1004.html
- IPAが、2007年度～2009年度に実施したものです。
- あとが、続いていない . . .



- <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Research/20100506/347731/zu4-14.jpg>

OSSに関するアンケート

- いやいや、お金持ち向きには、ちゃんと、実施されていきました。
- Gartnerも、やっています。
- これらは、お金を出さないと見ることができないし、見ても、よそでしゃべることができません・・・

OSSに関するアンケート

- IDC
- 国内オープンソースソフトウェア利用実態調査結果を発表
- <http://www.idcjapan.co.jp/Press/Current/20140108Apr.html>
 - 企業におけるOSSの導入率は32%、前回調査から6.7ポイント上昇
 - OSSの活用に対して積極的な企業は、ビジネスも成長している
 - OSS RDBMSの使用傾向に違い。一般ユーザー企業ではMySQL、サービスプロバイダーではPostgreSQLでの使用が多い
 - Hadoopの使用目的はバッチ、ログの解析、ストレージ、検索／インデックス作成など多岐にわたる

本当にオワコンか

- オワコン、の前に、OSSはどこから来たのでしょうか

先駆的形態について

- 先駆的状況、netlabとか。
- アメリカ合衆国職員の著作物、Wikipedia
- ベルヌ条約の内国民対応によれば、日本国内には通用しない
- たとえば、オークリッジ研究所
- PVMの開発元。PVMには、BSDライクな著作権表記がある。

先駆的形態について

- LINPACK、これが、不明だ。
- ファイルを見ても、ライセンス表記がない。
- 実は、SIAMからユーザガイドの書籍が出ていて、それについては、SIAMの著作権があるらしい。で、そこにコードも印刷されてるの？
- だいたい、netlibは、著作権的にはめちゃくちゃらしい、と、Wikipedia
- このように、複雑です。

本当にオワコンか

- オワコン、とは、どういうことか

中原の「形骸化」6類型

- アタタタタタタタタ、アターッ！おまえは、もう「形骸化」している!?: 「手法のオワコン化」に潜む6つのパターン!?
- http://www.nakahara-lab.net/2014/04/post_2206.html
- 中原淳 東京大学 大学総合教育研究センター 准教授
- 2014年4月14日

中原の「形骸化」6類型

1. ムーブメント形成の失敗
2. 資格付与における失敗
3. 人材育成における失敗
4. 概念定義の失敗
5. 外部環境への変化拒絶による失敗
6. カリスマ化による失敗

本当にオワコンか

- OSSの歴史をたどろう
- 個々のOSSがオワコンかどうか、が問題なのではない

- ということで、一時期、中の人(といっても、労働者)だったことがある、国のOSS施策の歴史を . . .

「国」って・・・

- 内閣府
- 金融庁
- 消費者庁
- 宮内庁
- 警察庁・国家公安委員会
- 公正取引委員会
- 総務省
- 法務省
- 外務省
- 財務省
- 文部科学省
- 厚生労働省
- 農林水産省
- 経済産業省
- 国土交通省
- 環境省
- 防衛省

經濟産業省→IPA

- 情報処理振興課
- 独立行政法人情報処理推進機構

オープンソフトウェア活用基盤整備事業

- 平成15年度～平成17年度
- 平成15年12月まで、情報処理振興事業協会
- 平成16年より、独立行政法人情報処理推進機構

オープンソフトウェア活用基盤整備事業

- 1) オープンソースソフトウェアを活用するソフトウェア開発者の情報交換・交流への支援。
- 2) 電子政府での活用も視野に入れたオープンソースソフトウェアで構築されたシステムの実証、情報家電の開発に適用できるような基盤的オープンソフトウェアを構築するための技術開発等の実施。
- 3) 新たに必要となる規格の標準化団体への提案や、開発成果のオープンソフトウェアとしての公開・データベース化
- 4) オープンソースソフトウェアのライセンスに関する研究

オープンソフトウェア活用基盤整備事業

- 目標（目指す結果、効果）；
 - オープンソースソフトウェアの活用を推進するコミュニティ等にソフトウェア開発や開発環境整備等の支援を行うことにより、安全でかつ革新的なソフトウェアの開発を推進するとともに、我が国ソフトウェアの競争力の底上げを図り、また、政府を含めたユーザーの選択肢の拡大を図る。
- 指標；
 - a. オープンソースソフトウェアの開発件数
 - b. 開発ツール等の開発環境の整備件数

経済産業省→IPA

- オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業
- オープンソフトウェア利用促進事業

施策名：オープンソフトウェア利用促進事業【経済産業省】

平成20年度対象予算：560百万円
全体予算：560百万円
(平成19年度対象予算：420百万円*)
*全体予算：703百万円
実施期間：平成15～24年度
(予算総額：7,100百万円)

○「情報システムに係る政府調達基本方針」には、オープンな標準に基づく調達および分割調達が謳われ、ITシステムの調達コスト削減およびITマーケットにおける健全な競争環境の構築を図ろうとしている。
○しかしオープンな標準および分割調達の導入は、一部民間にとっては独占的で優位な立場の放棄を意味することから初期における自発的取組は期待できず、官主導により方向付けを行うことが不可欠。

ユーザーサイトのオープンソフト利用促進

オープンな標準の普及

・技術参照モデル(TRM)の策定等

OSSサポートに係る人材育成

・サポート側、調達側双方向けの人材育成カリキュラム作成等

オープン標準導入のための関連開発

・政府調達に不可欠な信頼性向上、互換性確保技術の開発
・構築されたソフトはOSSモジュールとして公開

普及啓蒙

・導入事例収集・提供、法的課題に関する調査、ガイドブック等作成、セミナー等開催

ユーザーのニーズに応える開発側の環境整備

OSSコミュニティの活性化

・高度OSS開発人材育成のため、我が国発のOSSプラットフォーム(例えばRuby等)を支援

15

• 3段階目では、「オープンな標準」が強調されている。

• <http://www8.cao.go.jp/cstp/project/bunyabetu2006/jyoho/6kai/siryo9-7.pdf>

経済産業省→IPA

- ソフトウェア開発支援
 - 出来たものをOSSとして公開する、という約束のもと、開発事業を国からの委託として実施。
 - 日本版バイドール法を利用。初期投資に国の費用を投下するも、メンテナンス費用の心配を国はしなくてよい。
- OSSセンターの設立
 - 競争領域はベンダー間でやってください。
 - 協調領域は国の支援を。性能評価、検証、 . . .

経済産業省→IPA

- 性能評価
 - 3階層Webアプリケーション、すべてOSSで構成し、例題も公開。
 - 国内ベンダーが共同して実施。人的交流のはたらきもあった。
- 自治体OSS導入実証
 - 企業のOSS採用は難しいだろうから、首長の一喝で自治体に。
 - デスクトップから始めたら、問題は基幹系にあった。
- OSS活用ビジネス実態調査
 - OSSビジネスは成長する、というメッセージ

経済産業省→IPA

- 北東アジアOSS推進フォーラム (←行事)
- 日本OSS推進フォーラム (←組織)
- OSS iPedia
- Open ラボ
- OSS人材育成
- IPAフロント

経済産業省→IPA

- 平成15年度～24年度の10年間
- しめて、71億円

経済産業省→IPA

- すべて、2012年までに手仕舞い。
- IPAの担当部署は、看板を架け替えた。

- やっぱり、オワコンなのだろうか。

では、他の省庁は…

- 自分の経験では、経済産業省→IPAの政策は終わっている、と思うのですが
- 他の省庁がどうなのか、知りませんでしたので、ためしに、内閣府でググってみました

内閣府

- Google で「内閣府 オープンソースソフトウェア」とやると、当協会の紹介ページが出てきます。
- www.cao.go.jp でサイト検索すると . . .

内閣府

- 情報通信分野推進戦略プロジェクトチーム
- <http://www8.cao.go.jp/cstp/project/bunyabetu/jyoho/>
- 「次世代の市場を作り出す新サービス創出に資するオープンソースソフトウェア」
- 第3回会合平成18年2月14日

内閣府

- AADL言語
- 社会会計システムオープンコンソーシアム
- エージェントベース社会システム科学研究センター/東京工業大学
- この言語は国民経済計算の記述のために設計開発されたものですが、広くオープンソースとして公開することを目的としており、会計システム記述一般にも有効に用いる事が可能です。
- <http://www.cabsss.titech.ac.jp/aadl.html>

内閣府

- 第12回（平成26年度）産学官連携功労者表彰
- <http://www8.cao.go.jp/cstp/sangakukan/index2.html>
- 平成26年9月12日（金）
- 科学技術政策担当大臣賞
- 長年に渡るオープンソースのリアルタイムOSプロジェクト / オープンソースの組込みリアルタイムOSの開発・普及
- 名古屋大学未来社会創造機構 / 大学院情報科学研究科 教授 高田 広章
- NPO法人 TOPPERS プロジェクト

内閣府

- 行政のICT化－世界最先端のICT国家の実現－
- http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2014/0527/shiryo_07_2_1.pdf

情報インフラの合理化・再構築

国・地方の運用コスト 3割相当の圧縮

政府情報システムの統廃合・クラウド化

・統廃合によるシステム数削減

’12年度:1,450システム → ’21年度:549システム

⇒ 毎年度見直し、加速・拡大

・政府共通プラットフォームへの統合(クラウド化)

’14年度:23システム → ’21年度:300システム

⇒ 拡充、機能充実・セキュリティ強化

大規模システムのコスト削減

・与党(IT戦略特命委員会)と連携

・コスト高要因の抽出

⇒ コスト削減計画の策定
(’14年度)

通信ネットワークの再編成

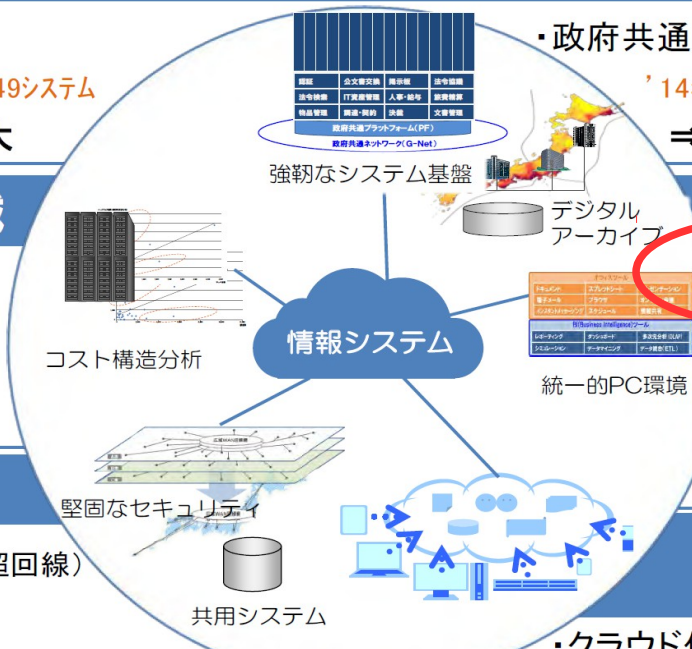
・通信回線の府省間統合(現状:1万超回線)

・ネットワークの仮想化

⇒ 再編方針の策定(’14年度)

重複投資の回避

・自治体事務の電子化:自治体共用システムの一括構築



ソフトウェアの標準化

・OSS※・仮想化、ガバメントライセンス導入

・職場のICT環境の変革
(クラウド化、モバイル化)

・PC環境の統一

※OSS:オープン・ソース・ソフトウェア

自治体情報システムのクラウド化加速

・クラウド化市区町村の倍増(～’17年度)

’13年度:3割(522団体) → ’17年度:6割(約1,000団体)

・自治体の情報システム改革の推進

・中間サーバのハードウェア(番号制度)の共同・集約化

⇒ 99%超の団体が共同・集約化見込み(’15年度)

(参考) 国・地方の運用コスト 3割低減

約7,200億円(’12) → ▲約2,160億円相当の減(’21)

「電子政府の社会的効果について」(株)三菱総合研究所より作成

内閣府

- 三菱総合研究所
- 電子政府の社会的効果に関するレポートをまとめました。
- <http://www.mri.co.jp/news/press/teigen/2013/001636.htm>
|
- でも、このレポートじゃないですね。

国と「オープン」

- オープンデータは、国主導
- オープンストリートマップは、国土地理院とか、前のめりらしい
- オープンソースソフトウェアは、もうやってないけど、そもそも、国のOSSって、あったっけ？
- IPA、LASDEC、西宮 . . .

- そんな中で、いまから振り返っても、深い味わいのあるエピソードがあります。

Episode I

- 「42」、2003年の出来事
- ☆オープンソース政策についての討論会のご報告☆
- <http://www.rieti.go.jp/users/it/policy/>

発端は . . .

- エンタープライズ：政府が捉えるLinuxへの取り組み、LinuxWorld Expoで経済産業省・久米氏が語る
- <http://www.itmedia.co.jp/enterprise/0305/22/eptn07.html>
- 「さらに深刻なのは、OSと同じくオープンソース界においても海外に依存している点であり、日本で開発方針でリーダーシップを取れるケースが極めて少ないことだ。比較的国内からの働きかけの多いFreeBSDにおいても、わずか12%程度に止まっている。日本での方針が、即、直接のソースコードに加えられる決定権が持たれていない。」
- 「久米氏による調べでは、日本発のオープンソースはわずか42件。これは非常に少ない件数だ。」

Episode II

- 「コードを書かない」、2005年の出来事
- 404 Blog Not Found:コード読みのコード知らず
- <http://blog.livedoor.jp/dankogai/archives/21958446.html>

- 発端は . . .
- CodeFest 2005 JAPAN
- http://blogs.da-cha.jp/index.php/momokuri/codefest_2005_japan
- 「人材育成とか、日本発のOSSとか、コードも書かない人に言われたくはない。」

いまふりかえってみると

- これら、当時の関連するページをみてみると、なんと、今日も同じ問題を抱えているままだ、ということが分かります。
- Episode I/II で問題になったことは、何一つとして、解決していない、か、問題の焦点がずれていってしまっただけ。

OSSの現状

- OSSは遍在している。(←偏在ではない)
- OSSプロダクトのライフサイクルが変容してきている。

OSSの遍在化

- OSSはOSやDB、ネットワーク関係のミドルウェアが多い、というわけではなくなった。
- OSSのアプリはオフィスソフトやブラウザのような汎用的なものに限られる、というわけではなくなった。
- OSS、と言わないだけで、OSSは、いたるところで、たっぷり使っている。

OSSの遍在化

- PCを買った時から、LinuxやOpenOfficeが入っている、というかたちでのOSSの普及、ではない。
- インターネットを介したサービスが主流になって、ネットの向こうにあるソフトウェアが、何なのか、という問題。
- ハードウェアを売るためのOSSではなく、サービス構築のためのOSSに。

OSSプロダクトのライフサイクルの変容

- OSSプロダクトは、いつ、どのようなきっかけで発生し、どのような経過で成長していくのか。
- 新しい技術の、最初の実装、有効なリファレンス実装、有力な実用品、が、OSSである、という事例。
- 商用プロダクトの代替品ではない。
- 商用技術のキャッチアップではない。
- そもそも、新しいことに手を付けたときから、OSSだった、という事例。

OSSが追い風(?)な話

- CMP

- OpenStack, Eucalyptus, Apache Cloud Stack

- BI

- Pentaho, Jaspersoft, Talend

- TODO Group

- <http://todogroup.org/>

- Box, Dropbox, Facebook, GitHub, Google, Khan Academy, Square, Stripe, Twitter, Walmart Labs

OSSが追い風(?)な話

- 読んでみると、OSSが追い風なことがわかります。
- 共食いするオープンソース・ソフトウェア
- <http://readwrite.jp/archives/3918>
- オープンソース企業からオープンソースが消えていく理由
- <http://readwrite.jp/archives/5146>
- グーグルが自社データセンターをオープンソース化した方法とその理由
- <http://readwrite.jp/archives/12468>
- あなたの会社がさらに多くのオープンソースソフトを書くべき理由
- <http://readwrite.jp/archives/12519>

OSSへの向い風(?)は無かった(?)という話

- 山形県、実はやめたわけではなかった。
 - 山形県のMicrosoft Office再評価は「OepnOffice.orgからの逆戻り」ではない
 - <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Watcher/20131023/513262/>
- ミュンヘン市、実はやめたわけではなかった。
 - 「Linux移行完了を受けて調査しているだけ」--ミュンヘン市、Windows回帰報道にコメント
 - <http://japan.zdnet.com/os/analysis/35053843/>

OSSの近未来

- オープンソースビジネスモデルの変革を迫られている。
- いつ、どのタイミングで、儲ける/儲けない、か。
- SIビジネスにけるOSSの位置づけは旧来から言われているが、SIビジネスが岐路にさしかかっているだけに、その重要度が増している。

最近のオープンソースビジネスモデル

- 「システムインテグレーション崩壊
～これからSierはどう生き残ればいいのか?」
- 斎藤 昌義 (著)
- 技術評論社/ISBN-13:978-4774165226
- 第5章 オープンソースソフトウェアを活用する
 - 伸びないIT市場の中で突出した成長が見込まれる分野
 - なぜ、OSSが支持を集めているのか
 - OSSを利用するメリットとは
 - Consume (消費) からContribute (貢献) へ

本当にオワコンか

- というよりも、常識になり、常態化してしまい、そこをあらためて強調するような段階ではなくなってきた。
- 概念として、かつ、実態として終わってしまったわけではない。

本当にオワコンか

- オッサンとしては :
- 使う分には構いませんが、知っていてほしいことも、あります。
 - NCSA Mosaic や、Netscape Navigator、ひいては、X Window 11 とかを、知らずに、意識せずに、GNOME とか KDE とか Firefox とか、Chrome とか、使っている。(GCCは?)
- OSSというか、フリーソフトウェア運動の話。
- ソフトウェアの4つの自由

ソフトウェアの4つの自由

- あるプログラムが自由ソフトウェアであるとは、そのプログラムの利用者が、以下の4つの必須の自由を有するときです:
- いかなる目的に対しても、プログラムを望むままに実行する自由 (第零の自由)。
 -
- プログラムがどのように動作しているか研究し、必要に応じて改造する自由 (第一の自由)。ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。
- 身近な人を助けられるよう、コピーを再配布する自由 (第二の自由)。
- 改変した版を他に配布する自由 (第三の自由)。これにより、変更がコミュニティ全体にとって利益となる機会を提供できます。ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。
- <http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.ja.html>

今、OSSについて考えるべきこと

- オープンソースビジネスモデル
- OSSに接しつつも、忘れてはいけないフリーソフトウェアの話

•OSSAJは、取り組んでいます。

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- 新潟から世界へ --- トキとオープンソースで、お・も・て・な・し (2014年2月14日)
 - 講演1 「新潟からオープンソースを発信しています - Niigata Linux, NPO総合管理システム -」
 - 講演2 「福岡からオープンソースを発信しています - コーポレートサイトにちょうどいいbaserCMS -」
 - 講演3 「川崎からオープンソースを発信しています - Web勤怠管理・人事給与システム MosP -」
 - 講演4 「長岡からオープンソースを発信しています - eコミの開発と活用 -」
- OSSの10年間を振り返る (2013年5月30日)
 - 講演1 「MySQLとオープンソースビジネスの10年、そして未来へ」
 - 講演2 「私がオープンソースCMS『Joruri』の分岐バージョンZOMEKIを作った理由」
- OSS 新時代 --- ソーシャルビジネスとOSS (2011年2月15日)
 - 講演1 : クラウドコンピューティングと OSS
 - 講演2 : CSR からソーシャルビジネスまで、企業が今意識すべきもの
 - 講演3 : ソーシャルビジネスとしてのオープンソース

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- OSS今後の動向を探る（2010年5月27日）
 - 基調講演：クラウド時代のOSSとプロプライエタリ製品の共存と競合
 - 講演1：仮想化とOSS
 - 講演2：企業情報システムの明日を左右するもの --- クラウドとBABOK ---
- 日本発のオープンソース・プロジェクト（2010年2月16日）
 - 講演1：NetCommons 情報共有基盤システム --- システムをユーザの手に
 - 講演2：MosP 人事・給与・勤怠システム --- 利用されなくてはMosPは育たない
 - 講演3：オープンソースプロジェクトを立ち上げ事業に活かそう --- OpenPNE プロジェクトの事例から学ぶ
- OSSによるビジネス、OSSのビジネスアプリケーション（2008年5月27日）
 - セミナー1：OSS 人事系業務アプリケーション MosP と OSS によるビジネス戦略
 - セミナー2：オープンソース BPMS（Business Process Management System）製品 と OSS ベンダーのビジネスモデル
- OSSビジネス最前線（2008年1月24日）
 - 講演1：オープンソース・ビジネスの変遷と今後
 - 講演2：LinuxビジネスからOSSビジネスへの変革

OSSAJとフリーソフトウェア運動

- OSSの10年間を振り返る（2013年5月30日）
 - 基調講演「それでも、自由なコンピューティングを希求する」
- OSSを活用したスモールビジネスでのライセンスとの付き合い方 --OSSライセンスの勘所--（2012年9月28日）
- GPLv3 解説ミニセミナー（2007年8月31日）

こちらに、録画、資料があります

- OSSAJ フォーラム/セミナーの記録
- <http://www.ossaj.org/seminar/>
- ただし、「それでも、自由なコンピューティングを希求する」の録画はありません。
- 現在普及している動画関連技術には、自由なコンピューティングじゃないものが含まれているので。

出前もやっています

- OSC Fukuoka 2012
 - 「ソフトウェア開発におけるオープンソースの位置づけとその変化、これから」
 - 講師の旅費を、OSSAJが負担しました。
- 今、注目してるのは、これ。いつか、OSSAJで話して欲しい。
- ITコミュニティ創出に県が関わるようになった理由～青森県の取り組み～
 - Tomoaki Sugiyama
 - 財団法人21あおもり産業総合支援センター
 - Sep 07, 2014
- <http://www.slideshare.net/tomoakisugiyama/it-38792918>

本当にオワコンか

- というよりも、深いところでは、まだ始まったばかり
- みなさんの悩みは、ひとりだけのものではありません。
- 30年以上も前から、繰り返され拡散されつづけてきたものです。

おしまい

- 提供は、特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会でした。
- 特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会は、会費無料の一般会員を募集しています。
- 年会費を払う正会員、企業を対象とした賛助会員の制度もありますが、まずは、無料の一般会員になってみたら如何でしょう。
- <http://www.ossaj.org/>
- Open Source Software Association of Japan です。間違っても、最後は Nippon ではありません。

蛇足

- 個人的には気になっているのだけれど今回は触れなかったこと
- OSSの品質
 - Qualipso , OpenHab , CoverityScan: . . .
 - 品質を決める要素、コミュニティ、成熟度、不具合対応のスキーム、ロードマップと優先順位、知的財産権に対する姿勢、セキュリティに対する姿勢、 . . .
- 国、地方自治体とOSS

蛇足

- 教育とOSS
 - OSS人材育成、ひいては、IT人材育成
 - 教育現場におけるOSS、校務用、授業用、ソフトウェアそのものが教材である場合、など
 - 教育の情報化、教科「情報」教育、情報教育

蛇足

- 歴史と将来
 - オープンソース第●世代、というまとめ
 - オープンソース関係者第●世代、というまとめ
 - 若返り問題、世代間格差
- 「ライセンス」問題
 - 国内法制度との整合性